

**新しい働き方
新しい暮らしを後押し**

河野理恵さんとハイロード・フランソワさん夫婦の住まいは、趣きのある静かな路地の奥にある。以前は旅館だったという建物は10DKの広々とした間取り。将来はゲストハウスを開きたいと考え、理想の場所を求めて全国を探して回った夫婦の夢は、白杵の町で実現した。

以前の2人は東京暮らし。理恵さんは会社員、フランソワさんは外国語教師をしながらアーティスト活動を続けていたという。だがコロナ禍で仕事がリモートワークになった時、ネット環境さえあればどこでも働けることを実感した。だったら温暖な九州。それも、理恵さんの実家がある大分市に近い方がいい。それからは白杵に何度も足を運び希望する物件を探して歩いた。

だが、ゲストハウスを開けそうな物件はなかなか見当たらない。「やっぱりダメかなと思っていました。最後にここを見せてもらいました。その時『あつ、ここならできそう』と直感したんです」と2人そろって微笑んだ。

制度を活用しているという。『支援制度がここまで充実している市は、他にはないと思います。金銭的なサポートがないと賃貸物件にここまで手を入れられませんでした。』

建物賃貸だが、家主には「自由に手を入れていい」と言われているため、今はリノベーションの真っ最中だ。電気や水回りは業者に頼んだが、できるだけ自分たちの手で作業を進めている。そうで「普段はつなぎを着てペンキを塗ったりしてるんですけど」と、理恵さんも楽しそうだ。東京からの引越には30万円かかったが、市の移住支援補助金制度を利用することで20万円の補助金があった。他にも空き家バンクの改修補助など、さまざまな

「僕の思っていた日本のイメージが、ここにはたくさんある。素敵な町だと思いました」と、フランソワさんは流暢な日本語で話す。広々としたキッチンには理恵さん、創作活動に専念できるアトリエはフランソワさん。それぞれお気に入りの場所があり、その中間には素敵なリビングがある。来年の夏にはプレオープンしたいね」と2人で話しながら、のんびりとくつろぐ大切なひととき。現在はリモートワークとリノベーション作業で大忙しが、夫婦の夢は毎日少しずつ完成形に近づいている。

巻頭特集

**見つける・支える
この町での新生活
白杵市の
移住・定住制度**



河野さん夫妻
PRプランナーの理恵さんと、フランス人でアーティストのフランソワさん。「海外の人に日本の文化を知ってもらいたい」と、ゲストハウスを開くことを決意。2021年8月転居。

コロナ禍をきっかけに、都会から地方への移住希望者が増加している。そんな人たちの間で注目を集めているのが白杵市だ。空き家バンクや各種支援制度も充実しており、新生活へのサポート体制も万全。今回は2組のご家族に、移住してきた経緯と現在の暮らしについてお話をうかがった。



三中西さん一家
篤さん・美和子さんと、杏成くん・和馬くんの4人家族。篤さんはカフェの店長や旅行代理店経営など、さまざまな顔を持つ。

さまざまなメディアやイベントを通じて、白杵市をPRしている三中西篤さん。今では「三ちゃん」と呼ばれて多くの人に親しまれる存在だが、彼が白杵市にやってきたのは2017年。中心市街地の活性化を行う地域おこし協力隊として、この町にやってきた。

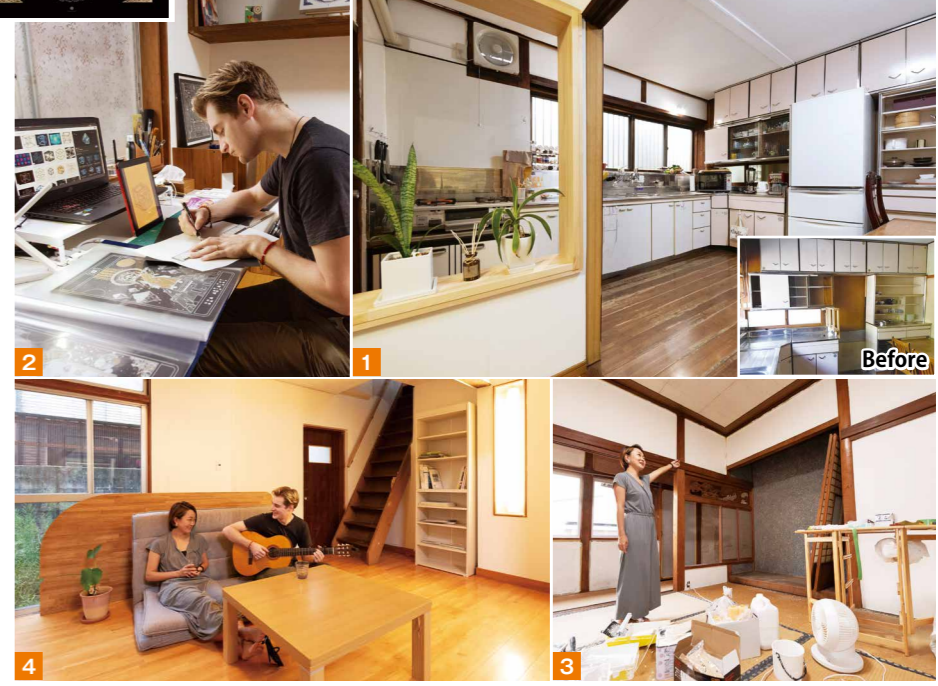
もともと町おこしに関心があった三中西さんは、当時暮らしていた東京で開催された大分県の「移住フェア」に参加することで白杵市を知った。それから移住ツアーの「うすきおためし暮らし」に参加。この時に聞いた先輩移住者の話や、実際に感じた町の雰囲気や「ここで暮らそう」と決心したという。

白杵に来た当時から住んでいる一軒家は、3つの部屋とキッチン、それに広い緑側の3.5K。

住む所を探していた時、空き家バンクの賃貸物件として登録されていた建物だ。他の物件も見ただが「広い庭のある一軒家に憧れていたから」と、ここに決めた。築40数年の家はあちこち傷んでいたが、独身の頃はあまり気にしなかった。美和子さんと結婚が決まって少し手を入れたが、この家を持つ昭和の雰囲気はそのまま残した。「移住奨励金や引越費用の補助、家賃補助など、移住者への充実した支援は本当に助かりました。傷んでいた所の改修には、大家さんに空き家バンクの改修補助金を活用してもらいました」と三中西さん。ひとり暮らしから始まったこの家の生活も今では結婚して2人の息子さんに恵まれ、にぎやかで楽しい毎日を通している。

日々の豊かさを感じる程よい田舎暮らし
美和子さんは「家の造りも懐かしい雰囲気、住み心地は良いですよ。都会から見れば白杵は田舎かもしれないけど、不便さを感じる田舎ではないですよ。歩いていける範囲にお店や図書館、お城（白杵城跡）だつてある。とてもいい所です」と笑顔をこぼす。子どもの頃は引越が多く、土地への思い入れはあまりなかったという美和子さん。そんな彼女にも、家族で暮らす白杵の町は、特別な場所になっているようだ。

日当たりの良い緑側で、音楽を聴きながら庭を眺める時間が「なんだか嬉しい」と、三中西さんは話す。若い頃、世界中を旅して回った彼が辿り着いた最高の場所は、家族で語らう白杵の緑側だ。ここから美和子さんと並んで、息子さんの笑顔と成長をずっと見守ってゆくのだろう。



1もと旅館なのでキッチンも広い。時にはご近所さんが、釣った魚をお裾分けしてくれるという。2アトリエで絵を描き、曲を作る。仏教芸術にも詳しいフランソワさんは、独特な世界観の作品を生み出してゆく。3リノベーション中の和室。2階の4部屋を客室にする予定だ。4ギターの色でティータイム。笑顔とともに夢も広がる。



5自宅は、旅行代理店「三中西ツーリスト」と「三中西整体」も兼ねている。6昭和の雰囲気をそのまま残した和室。7広い縁側は、家族みんなのお気に入りの場所。8壁の絵やレコードプレーヤーなどは大家さんから譲り受けた。建物だけでなく調度品にも昭和の香りが漂う。9三中西さんが店長を務める「リーフデカフェ」（サーラ・テ・うすき内）。

知りたい! 聞きたい! 教えて!

市役所の方に聞きました!

白杵市の空き家バンク制度?
家を売りたい(貸したい)人と、買いたい(借りたい)人を結ぶのが「空き家バンク制度」です。所有者が登録を行うと、物件情報が市のホームページなどに公開されます。その情報を見た利用希望者が内覧を申し込み、気に入れば契約へと進みます。空き家だった家が新たな暮らしの場となることは、地域の活性化にも繋がります。

白杵市の移住・定住支援制度?
市外から転入される方や婚姻して新しい世帯を持たれる市内在住の方など、白杵市ではさまざまなケースに応じた移住や定住のための支援制度が充実しています。たとえば引越費用や家賃の補助。住宅の購入や改修時には、定住促進住宅補助金が受けられます。これらの支援制度が、白杵暮らしを始める人たちを支えてゆきます。

白杵地域おこし協力隊 増本 郁子さん